



「世界津波の日」2017 高校生島サミット in 沖縄 参加報告

11月7日から8日の2日間、「『世界津波の日』2017 高校生島サミット in 沖縄」に2年生3名が代表で行って来ました。本校からは、昨年高知県で開かれた第1回目につき、2回目の参加となりました。

[11/6 移動/仙台空港→伊丹空港→那覇空港]

1日目、仙台空港から約1時間のフライトで経由地の伊丹空港へ。約2時間あった乗り継ぎまでの時間で昼食を済ませ、いざ沖縄へ。午後5時ごろ那覇空港に到着しました。当日の沖縄の気温は25度前後。夕方とはいえやはり暑く、夏のような感じでした。空港からホテルまではタクシー移動。そこで運転手さんから沖縄についての興味深い話を沢山聞くことができました。紹介までに、沖縄には沖縄語という独自の言語があるそうで、方言の程度ではなく、全く日本語と違う言語なのだそうです。そのためか、沖縄の方は標準語を日本語と呼びます。ただ最近では、沖縄語は若い世代にはあまり浸透していないようで、少し寂しいですね。ホテル到着後は夕食をとり、翌日に向けて睡眠をとりました。

[11/7 首里城見学/島サミット開会式]

2日目の午前はフリー。先生はジョギングへ、私たちはバスで首里城見学に向かいました。それにしても、沖縄に来てまで走るとは、さすがは平内先生、ストイックですね(笑)。さて、首里城見学に行った私たちでしたが、なんと目的地とは反対方面のバスに乗ってしまい大変なことに。なんとかバスを乗り継ぎ、首里城にたどり着いたものの、朝から忙しい日でした。ただ、首里城の壮大さは相当でした。日本の神社や寺とは違った琉球の文化がそこに見え、まるで外国にいるようでした。

いよいよ午後はサミット。会場に入ると想像以上の本格さに圧倒されました。開会式では翁長知事にもお言葉を頂き、改めてサミットの規模の大きさを実感するとともに、これから始まる海外生徒との交流に胸を弾ませました。開会式の後には、各分科会に分かれ、自己紹介と交流を行いました。私たちが参加した分科会は、海外からはパプアニューギニア、マーシャル諸島、チリの高校、国内からは北海道、大阪、大分、沖縄2校の高校で構成されていました。この日は、それぞれの国や家族についてなどを話しながら自由に交流しました。忙しい1日でしたが、この日一番学んだことは沖縄のバスは複雑で、路線が入り組み、乗り換えが分かりづらいということ。皆さん、沖縄を旅行する際は、レンタカーにしましょう(笑)。



[11/8 分科会プレゼン/全体会/歓送交流会]

この日は1日中サミット。午前中の分科会ではいよいよプレゼンです。私たちは、東日本大震災時の津波避難についての事例を紹介し、避難の効率化をはかるためにはどうすれば良いかについての研究を発表しました。慣れない英語での発表でしたが、皆さんにはしっかりと伝わっていたようで安心しました。特に興味深かったのはパプアニューギニアの高校の発表で、津波が来る際には、沿岸に植えたココナツの木に登るというものでした。女性や子供、高齢者でも登れるのかと聞くと、即答で「登れます!」。恐るべき身体能力の持ち主達です。実際に木では流されるのではないかとも思い、聞いてみましたが、沿岸に高台がないからそうするしかないという事情も。日本のように沿岸に高台があるところばかりではないのだと実感しました。マーシャル諸島も海拔が最高3メートルということで、高台がない地域の津波避難を考えると難しい問題です。

午後はビーチで全体の記念撮影。その後、全体会で各分科会の報告をし合いました。終盤には安倍首相からのビデオメッセージも。これには会場中がどよめきました。最後は全会一致で今回のサミットの内容を集結した Ambassadors Note が可決されました。

夜は歓送交流会。サミット参加者が一同に介し立食をしました。それぞれの国について真面目な議論を交わすグループもあれば、他愛もない雑談で笑い合うグループなど様々でしたが、皆仲を深め合っているように見えました。仲良くなった生徒とはLINE交換もしました。ただ、海外の高校生とSNSで交流するのにLINEやTwitterは役立たずです(笑)。海外では、FacebookやInstagramが主流なようです。私は海外の人と交流を持つたびにインストールしておけば良かったと後悔しますが、使い方が分からず、未だにしております(笑)。



[11/9 帰路/那覇空港→伊丹空港→仙台空港]

前日の余韻が冷めぬまま空港へ。フライトまで時間があつたので空港で各々お土産を探していると、同じ分科会だった日本の生徒と再会するという一幕も。帰りのフライトでは、皆疲れが溜まっているのか熟睡でした。金曜日と理不尽にもこのタイミングでやってくる土曜授業に向けて体力を温存しました。

最後に

今回の島サミットにおいて、国内外の高校生と交流を深め、防災、文化や習慣の違いについて話し合えたことは、私たちにとって非常に貴重な経験となりました。あまり日本人にとって馴染みのない国からも多くの参加者が来ており、実際に会って話すことでしか得られない、生きた情報を多く吸収することができたと思います。それと同時に、海外の高校生のコミュニケーション能力の高さも感じました。そもそもの英語力にも差があるのかもしれませんが、それ以上に、海外の高校生には失敗を恐れず英語でコミュニケーションを取ろうとする積極性がありました。私たちも彼らから学び、英語に自信がなくとも積極的に海外の人とコミュニケーションを取ろうとする姿勢が必要だということを実感しました。最後になりますが、このサミットで得た経験をこれからの学校生活、将来に活かしていきたいと思うと同時に、このような機会を与えてくださった方々に感謝し、編集後記とさせていただきます。